



金未来メロン

ウドンコ病、ツルワレ病に強い、糖度の高い黄皮メロンの最高峰!!

【特性】

- ① ウドンコ病、ツルワレ病に強く、べと病にも極めて強い、裂果の少ない栽培容易な黄皮メロンである。
- ② 草勢は中位、葉はやや小ぶり、側枝の発生良く節間はやや短めである。雌花の着性、着果性、肥大力ともに安定している。
- ③ 果は豊円形で鮮濃黄色の滑らかな美しい肌。果重は 1.8～2.0kg 位、果肉質は繊維のない細やかなメロン質で香りに富む。肉色は白橙色で目にも鮮やかな印象を与える。
- ④ 作型によって登熟日数は異なるが、開花後およそ 45～48 日位を標準収穫期とする。糖度は 15～17 度で、個体むらが多くなく、発酵がないので日持ちが良い。

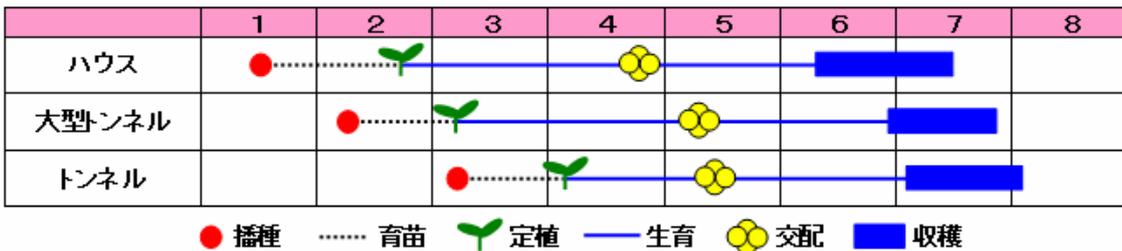


【栽培のポイント】

- ① 整枝作業は必ず晴天の日に行い、夕方には傷口が乾くようにする。
- ② 這い栽培では子づる 2 本仕立て、9 節までの孫づるは早めに積み、着果予定節位の孫づる 12～13 節は 2 枚残して摘芯し、その先は 1 葉で摘芯する。2 本仕立てで 4 個どりとする。

【栽培の目安】

(関東標準)



【栽培法】

○育苗・定植

連結ポット育苗では、育苗期間 30 日程度を目安とします。

育苗期の温度管理として、発芽揃いまでは昼間 30℃前後、夜間 25℃を確保できるようサーモスタットを設定。発芽後は昼間 25～30℃、夜間 23℃程度として、定植時期の夜間は 20℃前後として下さい。

定植後の温度管理

定植後数日は高めに温度管理し、活着を促進させて下さい。

活着後、昼間の最高気温は 30℃程度、最低気温は 13℃以上確保できるようにして下さい。

交配期～果実肥大期⇒昼間気温 30℃前後、最低気温 15℃を確保し、果実の肥大を助長します。

○整枝（子づる 2 本仕立て）

親づるを苗の時点で 4～5 節で摘心した場合、活着が少し遅れることがあるので、定植後の摘心が良いです。

8 節以下の子づるは早目に摘み取り、9～12 節の側枝を結果枝とします。着果個数は 4 果どりが適しています。5 果どりでは、果実が少し小さくなることがあります。

1. 播種日

暖地（ハウス＋トンネル）栽培 12 月蒔き

2. 施肥量（10a 当り）

成分量 N.10～15kg、P.20kg、K.10～15kg

圃場準備（耕起、整地、基肥施肥）は、定植 15 日前までには終わらないようにする。

窒素が生育期間中ムラなく吸収され、収穫前に切れる状態になるよう、前作の残肥を計算して施用する。

育苗日数 35～38 日前後、展開葉 3～3.5 枚の苗節時に定植。

3. 整枝、地這栽培

親づるは 5 節で摘心

定植後 10～12 日後、子づるがある程度揃ったときに、2 本または 3 本を主枝として残し、ほかはかきとる。

8 節以下の側枝は早めに摘み取る。

着果節位は 9～12 節の範囲に結果枝（孫づる）とする。

4. 水分管理

活着促進のため鉢のまわりに灌水を行う。定植の 4～5 日後、早朝に葉に露が見られたら、灌水を止める。以後、開花～着果期まで、よほど土壌が乾燥しない限り、灌水を控える。着果確認後から、灌水をはじめ、果実の肥大を促進させる。（あまり多水分では、果実肥大期に裂果が出ることもあるので注意する。逆に極度に乾燥させると、生育後期に草勢が衰え、糖度がのらないこともあるので、水分管理に注意して下さい。

裂果する条件

肥料、土壌水分過多になると起こり易い。

5. 収穫

基本的には果梗部の離層がはがれるころ。果皮の色上り、結果枝の苦土欠乏症状などが見られたら収穫に入る。